

2024年7月2日(火) 第7限

1年キャリア教育特別講座 『ミライの選択～意思決定の方法～』

河合塾 中部営業部 担当部長 西山直志氏

進路学習の一環として、「キャリア教育特別講座」を実施しました。人生の節目にはたくさんの選択の場面があります。そのときに、直感やその場の雰囲気や決めたり、自分以外の誰かの考えに流されて決めたりするのではなく、自分自身で考え、納得した上で決定する方法を学びました。



【 総合評価法 】

- ・選択肢×判断基準
- ・判断基準には「重み付け」をする
- ・総合点で考える
- 可視化することで、説得力が増し、
自他共に納得感のある意思決定ができる

講演では、「部活動を継続するかどうかを悩む高1のS君」を例に、「テニス部を続ける・部活をやめる・卓球部に転部」(選択肢)と「人間関係・勉強時間・レギュラー」(判断基準)を点数化したものを表に記入して、どの選択肢が良いか判断する経験をしました。また「先輩のしくじりから学ぶ」という総合問題では、先輩の意思決定の機会(分岐点)における「しくじり」を周りの人と話し合いながら、分析したり、具体的なアドバイスを考えたりしました。講演会の最後には、自分自身の進路について「選択肢」(学部)と「判断基準」を表に記入し考えました。進路を決める際、何を判断基準にすればよいのか、どの基準が自分にとって大切なのか、必死に自問自答している姿が見られました。次回(11月)の講演会には、夏季休業中のオープンキャンパス等の経験も踏まえて、進路選択に対する答えが明確になった状態で臨めることを期待します。

講演後の生徒の感想

- ・今日の講演で意思決定はたくさんの情報を集めたり、自分の性格をちゃんと知ったりすることがとても大切だと学びました。私は、まだ将来やりたいことが決まっていないので、今日学んだことを生かして選択肢を作り、判断基準を決めて、大学選びや将来の仕事選びに利用していきたいと思いました。
- ・総合評価法と私自身の考えが違ったので、優柔不断の私にとってとても参考になりました。私は行きたい大学、学部はもう決まっているけれど、あと2年あるので1つに絞りすぎることなく、オープンキャンパスなどに行って視野を広げたいです。
- ・選択するときには様々な観点から決めないといけないので難しいと感じました。今私も文理選択で迷っています。友人や家族の意見も取り入れながらも自分の思いを大切にして決めていきたいです。

